

# 芸劇 BUZZ

TOKYO METROPOLITAN THEATRE EVENT INFORMATION

vol.4 2013  
7.8.9.

## INTERVIEW

コンサートオペラ「青ひげ公の城」

指揮者 井上道義

## 特集

芸劇eyes番外編

「God save the Queen」

## PICKUP

もっと気軽に音楽を!  
新シリーズもスタート!

エル・システム・フェスティバル  
2013 in TOKYO

作:つかこうへい 構成・演出:三浦大輔

「ストリッパー物語」

二兎社「兄帰る」

マームとジブシー「cocoon」

ミュージカル

「ハロー・ドーリー!」

勅使川原三郎プロジェクト

「第二の秋」

キリンバズウカ「マチワビ」

他

## LINEUP

7月・8月・9月

## REPORT

勅使川原三郎&鈴木優人

「無限大 $\infty$ パイプオルガンの宇宙—  
バツハから現代を超えて」

作・演出:松尾スズキ

「マシーン日記」ツアー

東京芸術劇場 芸術監督

野田秀樹 対 談 勅使川原三郎

ダンサー 振付家 演出家



東京芸術劇場 コンサートオペラ Vol.1 バルトーク《青ひげ公の城》

インタビュー 指揮者 井上道義

## 「記憶の城」で主導権を争う男女の物語

20世紀ハンガリーの大作曲家、バルトーク・ベラ(1881-1945)。

彼が遺した傑作オペラ《青ひげ公の城》(1918)では、

神秘的な響きのもと、「愛の記憶」の在り方が

全く異なる男女の姿が暴かれてゆく。

**STORY** 吟遊詩人の口上の後にオペラが始まる。許婚を捨て、家族の反対も押し切って青ひげ公に嫁いだユーディトは、七つの開かずの扉を開けるよう夫に願い、「この城に光をもたらすのよ」と告げる。第一の扉は拷問部屋、第二の扉は武器庫、第三の扉は数々の財宝を隠していた。第四の扉を開けると血染めの土の上に花園が広がり、第五の扉から

は青ひげの領地が見渡せる。しかし、夫の制止を振り切ってユーディトが第六の扉を開くと涙の湖が見え、最後の扉を開けると青ひげの前妻たちが生きて現われる。ここで青ひげはユーディトに近づき、豪華な衣裳や王冠を身に付けさせる。するとユーディトは他の女たちと一緒に部屋の奥に姿を消す。舞台が暗くなって幕。

「オペラ《青ひげ公の城》の世界とは、つまりは、全ての男性が心に持つ『記憶の城』なんです。忘れれば良いような昔のことを何度も思い出したりするんだよ!男ってやつは(笑)。30年前の思い出が昨日のように蘇ってきたりするね。だから、学生時代に仲の良かった女性に突然電話したくなるようなことも起きる。でも実際に電話をかけてみると、出た相手はいきなり『何よ、今ごろ電話なんかしてきて、冗談じゃないわ!』ってことになるわけだ(笑)。この違いにはびっくりします。女性は切り替えと割り切りの『上書き機能つき記憶回路』を持っているから、過去と現在とは別もの。昔と今が交差しない。でも、男はそうじゃない。過去の愛と現在の愛が両立することが多いんです」

確かに。ふとした瞬間に、昔の相手を懐かしむ気持ちが沸くことも。

「オペラに出てくる『七つの扉』とは、青ひげ

の心に棲む過去の7人の女たちのことでしょう。彼の頭の中には、彼女たちがまだ生き活きと存在しています…僕自身の心にだって、昔巡りあった女性は何人も居続けていますよ。でも、今僕が付き合っている女の人はそんなこと想像もしないでしょう。男女の意識の違いがそこに歴然とありますね。青ひげに嫁ぐユーディトも相手の心中は読めていません。家族の反対を押し切り、許婚を捨ててまで青ひげの元にやって来る彼女なのに」

### ここで、人間性の解釈に一步踏み込んで。

「でも、もともと恋愛ってそういうものだよね?本当に相手を好きになれば、他はどうでもよくなり、自分の命をなげうっても良いと思えてくる。ただ、普通の人は実際にはそこまで踏み切れないですね。でも、そういった衝動が無い人生というのも残念ですよ。恋愛じゃなくても、な

りたいものになるための勉強や、どこかに行くための資金を稼ぐとか、熱中出来るものはあった方が良い。音楽畑ではピアニストからよく聞かされます。『私はピアノが恋人なのよ!』って。何にせよ、打ち込めるものが有った人は幸せです。『あの時は生きていたな!』という実感を、少し後になって思うんだろうな」

しかし、ドラマの青ひげとユーディトの関係性は、一筋縄では行かないものに。

「青ひげを一途に愛しても、その一方でユーディトには成し遂げたいことがある。それは『この恋愛では自分が主導権を握る』ということですよ。どんな状況でも自分を失わない彼女だからこそ、受動的な姿勢で青ひげのものになるのは嫌だと言い続けるのです。でも、青ひげの側では答えは最初から決まっている。彼は自分に物凄く自信があるから、『主導権を最後に握るのは俺だ!』と譲らない。その闘いの果てに、青ひげは、ユー

ディトの存在を、それまでの女たちと同様に、記憶の城に仕舞い込むことになってしまうんだね」

なるほど。ならば、幕が降りた後のユーディトは一体どういうことに?

「たぶん、過去の奥さんたちは本当はもう逃げ出してしまっていて、城には居ないんだろうね。でも、青ひげの記憶の中からは出られぬままであるということ…それがこの物語の真相なんですよ。ユーディトも、肉体的には脱出したかもしれないけれど、青ひげの記憶の中では囚われたまま。その辺りを幕切れでどう描くかは、当日までのお楽しみです!」

ちなみに、今回のステージでは、冒頭に出る吟遊詩人の役を名優仲代達矢が演じるのも話題的。

「出て頂けて本当に嬉しいです。俳優育成の『無名塾』を長年続けておられますが、昔、立ち上げ後すぐにイブセンの『ソルネス』の公演があり、それを観に行きました。その時、『私の一生は、雲の上に揺るぎのない城を建てること!』という仲代さんの台詞に強烈な印象を受けました。まさに音楽の演奏と同じ境地ですよ…実はその無名塾に僕の親戚も入っていたんだよ。良い女優さんでしたが、その後何年かしたら俳優の役所広司の奥さんになっていた!(笑)。こうした繋がりもあって、仲代さんに出演頂けることになりました」

### ここで話題はバルトークの音楽へ。

「《青ひげ公の城》を歌劇場で観たのは随分前ですが、言葉も判らず舞台は暗く、字幕もないし、大舞台なのに二人しか出てこないし、何これ?と思ったね(笑)。でも、ここ何年かで、この作品をやろうという気持ちがどんどん強くなり、四年ほど前にも実演を振りました。バルトークの音楽は本当に、非常に、ヒジジョーに独特!よくあんな風に見えるなと思います。その独自性は土地柄に根ざしたものでもあるのでしょうか。彼は民謡の採取をずっとやっていたからね」

確かに、ウィーンで勉強しようと思ったものの、結局は自分の国の音楽院に入ったバルトーク。故郷への思いは非常に強い筈。

「彼はトランシルヴァニア地方の出身ですが、あの辺はハンガリー系とルーマニア系が共存し

ていて、常に民族問題を抱えていますね。日本人には判らない、領土を『取った取られた』の繰り返しで、まさに何十年かごとに国境線が変わるような感じです。そういった人々には、国の全体像を象徴するものは地図ではなく、物語であったり音楽であったりする。縁ある音楽を耳にしたならば、『あ、これは自分の居たところのメロディだ!』と判り、繋がりを肌で実感するんでしょう…僕は30代の頃、ルーマニアのクルージュでたびたびオーケストラを振っていました。ここもトランシルヴァニアに属していて、ルーマニア語でやる歌劇場とハンガリー語でやるオペラハウスと二つあったんですよ。あんな小さな街でもね。バルトークの故郷も、当時はハンガリー領で現在はルーマニア領のナジセントミクローシュということです。そういった複雑な文化圏で彼の独自性は育まれたんですよ」

### 最後に、照明プランも手がけた今回のステージングについて。

「主演者二人はハンガリーの名歌手。バスのコヴァーチ・イシュトヴァーンとソプラノのメラース・アンドレアに歌ってもらいます。このオペラではアリアのような部分的な聴きどころよりも、全体的なテーマをどんと打ち出すことで、その世界観を皆さんにも深く理解して貰えるはずです。過去の7人の女たちの存在感も音楽がはっきりと表しますし、彼女たちそれぞれが持つ『色』も、照明を作り込むことで充分理解して頂けるでしょう。お能のような形式的な所作も交えながら、今を生きているのは青ひげとユーディトのみで、この二人が恋愛関係を全うするということがステージで表現出来れば良いですね。だから舞台装置も要らない。今回はオーケストラがピットでなくステージで鳴らすから、それぞれの楽員さんが出している音もより鮮烈な色合いを帯びて、音として沸き立つような作品になりますよ。なお、前座でオッフエンバックのパレエ音楽《パリの喜び》もやります。内容があまりに対照的ですが、それぞれ人生の明暗を象徴するというこ

とで、両方とも愉しんで頂けるとと思います。皆様のご来場をお待ちしています!」

いのうえ・みちよし 1971年グッド・カンテリ指揮者コンクール優勝。1983～88年新日本フィル音楽監督、1990～98年京都市響音楽監督・常任指揮者。現在、オーケストラ・アンサンブル金沢音楽監督。シカゴ響、ロイヤル・フィル、ミュンヘン・フィル、スカラ・フィル、レニングラード響、マルセイユ歌劇場等に客演。近年では、2007年東京・日比谷公会堂にてシオスタコーヴィチ交響曲全曲演奏プロジェクトを開催、大きな成功を収めた。オペラでは2009年東京芸術劇場による共同制作公演「トゥーランドット」、2010年「イリス」(指揮、演出)、2012～13年「カルメン」で高い評価を受けた。

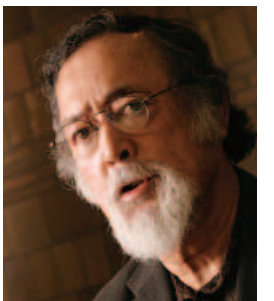
### バルトーク《青ひげ公の城》

9月13日[金]

19:00 開演(18:00 ロビー開場)  
コンサートホール

指揮:井上道義

管弦楽:東京フィルハーモニー交響楽団

コヴァーチ・イシュトヴァーン  
(青ひげ公/バス)メラース・アンドレア  
(ユーディト/メゾソプラノ)仲代達矢  
(吟遊詩人)

【曲目】  
オッフエンバック(ロザンタール編曲)/  
パレエ音楽「パリの喜び」  
バルトーク/歌劇「青ひげ公の城」(演奏会形式)

詳細はP13へ

取材・構成:岸 純信(オペラ研究家)



# God save the Queen

東京芸術劇場が、次に演劇の中核を担う才能を紹介する芸劇eyesシリーズ。その番外編として、さらに若い選りすぐりの才能を、短編作品のショーケース形式で紹介した2011年の『20年安泰。』。大好評を博したこの企画が帰ってくる。

かも今回は、5人の作・演出家がすべて20代から30代の女性。

質問：演劇という表現を始めた理由。

毎日の思いを人々が覚えてくれました！

うさぎストライプ

YOKO OIKE

劇作家、演出家 **大池容子**

ずっと漫画家になりたいと思っていました。でも緊張すると、手がふるふる震えるからなれませんでした。あれになりたかったなあ、とか、これ言いたかったのになあ、とかを、これでもくえ、という気持ちで演劇にしています。

タカハ劇団

AYA TAKAHA

劇作家、演出家 **高羽 彩**

演劇に触れ始めた当初の原動力は「思ってた以上に褒められるぞ！」という非常に幼いものでした。今は、他のメディアよりも自分の意志をより深く作品に反映できるところが気に入っています。なにせ稽古が楽しいです。

島公園

KAORI NISHIO

劇作家、演出家 **西尾佳織**

演劇を選んだというより、流れ着いて、ここまで辞めることにならず来ている感覚です。自分が前に出てガシガシ作るのではなく、そこにあるものの中に道筋が見えてくるのを待つ、という時間のかけ方を出来るところが好きです。

ワワフラミンゴ

FUKI TORIYAMA

劇作家、演出家 **鳥山フキ**

特にきっかけ等はなく、なんとなく劇以外の事をやろうという頭がありませんでした。考えている事を、劇だと上手く言える気がします。他の手段ではひとつも上手く言えません。あとは台本を書いたり役者と劇を作る作業が好きだし、楽しいからです。

Q

SATOKO ICHIHARA

劇作家、演出家 **市原佐都子**

なにかつくりたいときに近くにあって、何回かやってみて、やっと自分のやることがちょっとはなにかになってる気がしたので。あと、迷惑かけたり嫌いな思いをすることがあっても人と関わらなければいけない場所に私は身を置いたほうがいいと思うので。

## 待望の第2弾! 芸劇eyes番外編『GsQ』の全容を遂に発表。

柔らかく気まぐれ、辛辣で残酷という女性的な側面を持ちつつ、男／女の二分法を無化するような強靱なクールさを備えているのが共通点で、この公演後は“女性劇作家”のイメージが一気に更新されるはず。話題集中必至のイベント名は「芸劇eyes番外編 第2弾『God save the Queen』」(『GsQ』)。9月の公演を前に5劇団を紹介。

文：徳永京子

### 芸劇eyes番外編 第2弾 God save the Queen

9月12日[木]～16日[月・祝]  
シアターイースト

参加団体(作・演出)  
うさぎストライプ(大池容子)／タカハ劇団(高羽 彩)／  
島公園(西尾佳織)／ワワフラミンゴ(鳥山フキ)／  
Q(市原佐都子) ※五十音順

主催：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)  
東京館／東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)  
※東京文化発信プロジェクト事業

詳細はP13へ

俳優がせりふを喋りながら壁を全力で押したり、荷物を散らかしてまた片付けたり、走ったり、話の内容と関係のない動きを繰り返す。つまり体を物語と切り離して、俳優が言葉に集中し過ぎて役に酔わないよう、演出の大池容子はいつも注意を払う。劇作家の大池容子を書く物語はセンチメンタルではあるが、激しい動きで息が上がる俳優の体が、その着地点を甘い涙のような単純なもので終わらせず、苦さや乾きという後味を観客の体に残す。



「おかえりなさい目」 2012年 アトリエ春風舎

**うさぎストライプ(うさぎすとらいぷ)** 2010年結成。大池容子の演劇作品を中心に活動。うさぎストライプが演劇をつくるのは、やっぱり見えないものが見たいからで、いつもは誰にも見せないけど、その人の中にぎゅっと押し込められたものが見たいから、これからもぎゅっと、そういう演劇をつくっていくんだと思います。

ある事件、ある場所、ある人物に関わった人間達、それぞれの人物像と関係性を、日常的な会話を組み合わせてシャープに描き出す。と同時に、物語の後景に、新興宗教、学生運動、オタクなどの社会問題も浮かび上がらせ、高羽彩は半径の小さな話に終わらせない。参加劇団の中では唯一、いわゆるスタンダードな作風だが、何でも無いせりふが、小さな鍵が大きな扉を開けるように作用していく瞬間は、演劇を観る大きな快感を与えてくれる。



「ネジ工場」 2012年 下北沢・駅前劇場

**タカハ劇団(たかはげきだん)** 高羽彩の脚本演出作品を企画・上演するためのプロデュースユニット。「書ける」若手作家として期待される高羽の作品は、綿密な物語性と生々しくチープでありながら叙情的な言語感覚が特徴。随所に笑いをちりばめながらどこか冷徹ともいえる終着点へと向かう物語は、現代人の抱える虚無感を描き出し大きな共感を呼ぶ。

移ろいや気配、まどろみなど、半現実、半覚醒の中で浮かび上がる状況や感覚を、劇場空間に大胆に再現。せりふ、俳優の肉体と声、照明、美術の配置を、常識的な位置からズラし、現代社会で切り捨てられがちな“〇〇未満”“〇〇と〇〇の間”“〇〇の余剰”の魅力を有機的に示す。築100年の日本家屋など劇場以外での公演、地方での作品づくりを積極的に行っており、西尾佳織の、時間と距離に対する大きな把握力が武器になっている。



「おねしょ沼の終わらない温かきについて」 2011年 シアターグリーンBASE THEATER

**島公園(とりこうえん)** 作・演出の西尾佳織と俳優・デザインの森すみれによる演劇ユニット。「正しさ」から外れながらも確かに存在するものたちに、少しボケた角度から、柔らかな光を当てようと試みている。モノの質感をそのままに手触す言語感覚と、殺伐とした世界を独特のテンポで生きるとどこか間抜けでチャームな俳優たちの佇まいが持ち味。

全体像や話の設定が簡単につかめない。むしろ、観客がそれにこだわるのを拒むように、スカートをはきふわりとひるがえす軽やかさで、ナンセンスな会話を次々と繰り出す。そのトーンはのんびりとし、美術や小道具、衣裳などのアイテムは愛らしさにあふれているが、根底に毒混じりの批判精神を感じさせるという不思議な作風。鳥山フキは5人の作・演出家の中で最年長だが、これまで密やかにしぶとく活動を続けてきた“遅れてきた新人”。



「バーン・ナ・バーン」 2011年 下北沢・café viet aroo

**ワワフラミンゴ(わわふらみんご)** 作者・鳥山フキを中心に小規模に活動している演劇団体です。2004年「くらやみ／フランス海のまん中」で旗揚げ。奇をてらわずに不思議な世界観と思わせるのを得意にしています。エビ、カニ、ホッチキス、双子等、独自の興味や関心を優先し、楽しく気楽に見ていただけの娯楽作品を作っています。

初めて演劇を作・演出したのが大学の卒業研究だったという市原佐都子。それをもとにした戯曲が2011年にAAF戯曲賞優秀賞を受賞し、今年はフェスティバル／トーキョーの公募プログラムにも選ばれるなど、順調なスタートを切る。体操のような不自然な動き、おかしい語尾がくっついた不真面目な話し方を、飛び道具ではなくデフォルトとして用い、現代のコミュニケーション不全とともに、普遍的な強者と弱者の対比を容赦なく照射する。



「虫」 2012年 アトリエ春風舎

**Q(きー)** 2011年より活動。市原佐都子が制作・演出を担う。作品にはよく動物や食べ物が登場する。ニンゲンの世の中の「形」に飼いやられされない、そこからはみ出している、無理している存在が気になっている。2013年秋にはF/T13公募プログラムに参加予定。



もっと気軽に音楽を！新シリーズもスタート！

コンサートホール 他

詳細はP10・P11・P12・P14へ

ワクワク感がさらにアップ！夏からの新企画ほか、多彩なコンサートが次々に登場。



人気の「ランチタイム」シリーズでオルガン三昧

東京芸術劇場のステージにあるパイプオルガンには「2つの顔」があることをご存知だろうか。一方はアンティークな雰囲気を感じさせる「バロック」様式、もう一方はシャープな印象が強い「モダン」様式。演奏される曲などによってチョイスされ、回り舞台のようなシステムによって客席へ向ける「顔」を変えるのだ。こうした楽器だからこそコンサートの選曲は多彩になり、幅広い音楽ファンに楽しんでいただけるのだろう。

このオルガンによる人気シリーズが、1999年から続いている「ランチタイム・パイプオルガンコンサート」だ。毎月1回、ベテラン奏者から新進オルガニストまでが次々に登場するこのシリーズは、オルガン演奏とホールの音響・空間を味わっていただけるとあって好評。この7月には記念すべき100回を迎える。さらには並行して行われている「パイプオルガン講座」も盛況であり、こちらも7月に50回を迎えるという人気ぶり。バックステージ見学とオルガンの仕組みが学べる回や、ホールで行われるリサイタルの予習ができる回など、普段はなかなか接することができないパイプオルガンに親しめるとあって、熱心なファンが集まっている。

19:30から1時間の「ナイトタイム」もスタート

さらに、この8月からはますますオルガンの魅力を知っていただける新企画がスタート。8月、10月、そして2014年2月に予定されている「ナイトタイム・パイプオルガンコンサート」は、タイトルのように夜の19:30から約1時間行われる。仕事を終えて帰宅途中の方、「ランチタイ

ム」は仕事や学校などがあり行けない……という方にはぜひ足を運んでいただきたい。これまで「せっかく聴きたいのに昼間ばかりで残念」とあきらめていた方には朗報だ。これに伴って人気シリーズの「ランチタイム～」の「パイプオルガン講座」は9月以降、隔月の開催に。12月のクリスマス・シーズンを彩る「パイプオルガンコンサート」も含め、東京芸術劇場の輝かしく重厚、そして心が震えるようなオルガン・サウンドを堪能できるだろう。

こうしたコンサートに加え、8月からはコンサートホールのエントランスで行われる「ティータイム・コンサート」もスタート。こちらはピアノや歌、室内楽など多彩な音楽を無料で楽しめるのだ。コンサートはお子さんがご一緒でもオーケー。ショッピングの前後、気軽に立ち寄って音楽を楽しめる貴重なチャンスになる。

人気シリーズが楽しめる春から初夏、そして新シリーズがスタートする盛夏以降。東京芸術劇場のオルガンと気軽なコンサートからは目が離せない。

文：オヤマダアツシ

～日本・ベネズエラ外交樹立75周年記念事業～ エル・システマ・フェスティバル 2013 in TOKYO

10月10日[木]～12日[土] コンサートホール

話題騒然、21世紀のクラシック音楽界をリードする「エル・システマ」の祭典。



クラシック音楽シーンに、南米のベネズエラから突然現れた、斬新な青少年の教育システム「エル・システマ」。少年少女への英才教育に注目が集まり、世界的な音楽家たちも称賛するこの機関は、<21世紀におけるクラシック音楽界の希望>といった高評価を受け、日本でも英語の教科書に掲載されるほど話題になっている。

その中で育ったグスターボ・ドゥダメルや2011年の「サイトウキネンフェスティバル松本」に出演したディエゴ・マテウスらは、あっという間に世界的なスター指揮者となり、21世紀のリーダーとして期待されている。しかし多くの音楽ファンは、ステージ狭しと並んだ大編成のオーケストラ「シモン・ポリバル・ユース・オーケストラ(現：シモン・ポリバル交響楽団)」

指揮：ディートリヒ・パレーデス(10日・11日)／レオン・ボットスタイン(12日)  
管弦楽：エル・システマ・ユース・オーケストラ・オブ・カラカス(EYOC)

10月10日[木] 19:00開演 ガラ・コンサート 蘇倉大:Tocar y Luchar モーツァルト:クラリネット協奏曲 マッティンソン:コントラバス協奏曲 (独奏:E.ルイス)他	10月11日[金] 19:00開演 ヴェルディ:「運命の力」序曲 グリーグ:ピアノ協奏曲 (ピアノ:萩原麻未) チャイコフスキー:交響曲第5番	10月12日[土] 18:00開演 ヴェルディ:「運命の力」序曲 モーツァルト:木管楽器のための協奏交響曲 ショスタコーヴィチ:交響曲第7番 「レニングラード」
---	---	--

が、バーンスタインの「マンボ!」やチャイコフスキーの交響曲などをアツク演奏する姿を見て驚いたことだろう。そして2008年12月、彼らが鮮烈な日本デビューを飾ったのは、ほかならぬ東京芸術劇場だったのだ。

その燃えるような魂が、『エル・システマ・フェスティバル 2013 in TOKYO』として10月に再び東京芸術劇場へと蘇る。この優れた機関で音楽教育を受けた若き音楽家たちで結成される「エル・システマ・ユース・オーケストラ・オブ・カラカス」が、注目すべきヤング・マエストロと来日。さらには、17歳でベルリン・フィルへと入団し「エル・システマ」が世界に知られるきっかけを作ったエディクソン・ルイス(コントラバス)というスター奏者も登場。コンサート

はもちろん、トーク・ライブなども含むワークショッパやマスタークラスなども行われる。コンサートには生き生きと表情豊かに音楽を奏でる注目のピアニスト、萩原麻未もソリストとして登場する予定だ。

10月10日～12日の3日間は、丸ごと「エル・システマ」の魅力と真実、そして圧倒的なパワーに接する最高のチャンス。震災被災地である福島県相馬市での活動にも注目が集まる中、音楽ファンはもちろん、音楽教育に携わる方々や学生、新時代のクラシック音楽シーンを先取りしたい方など、多くの皆さんに衝撃的な体験をしていただきたい。

文：オヤマダアツシ

人気シリーズに加え、新企画も続々スタート！  
7月からの注目公演  
LINEUP

ランチタイム・パイプオルガンコンサート  
12:15～12:45

7月25日[木] 小林英之、新山恵理、平井靖子

9月26日[木] 永瀬真紀

11月7日[木]／'14年1月16日[木]／'14年2月20日[木]

ティータイム・コンサート  
14:00～14:30

8月27日[火] 原田靖子〈子供向け〉

10月29日[火]／12月24日[火]／'14年2月18日[火]

ナイトタイム・パイプオルガンコンサート  
19:30～20:30

8月8日[木] 小林英之 & 緒方 恵(Vn)

10月3日[木] 新山恵理 & 福井健太(Sax)

'14年2月13日[木] 平井靖子 & 青木洋也(C-Ten)

パイプオルガン講座  
14:00～16:00

7月25日[木] 第50回 特別編 紙パイプ工作

9月26日[木] 第51回 基礎編

11月7日[木] 第52回 クリスマス・コンサートによせて

'14年1月16日[木] 第53回 基礎編

クリスマス・パイプオルガンコンサート  
19:00～21:00

12月18日[木] 川越聡子

主催：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

INTERVIEW

ディエゴ・マテウス

1984年生まれ。2008年に国際デビューし、現在はヴェネツィアの由緒ある「フェニーチェ劇場」首席指揮者を務める。日本には2011年の「サイトウキネンフェスティバル松本」に登場し、2013年にはNHK交響楽団も指揮。

私の〈家〉である「エル・システマ」の魅力を味わってください。

若くてとてもエネルギーなおオーケストラである「ユース・オーケストラ・オブ・カラカス」が日本へ来日すると知り、東京でもきっと素晴らしい演奏を披露してくれると楽しみにしています。「エル・システマ」の創始者であるホセ・アントニオ・アブレウ博士とこのオーケストラは世界ツアーもスタートさせ、各地でいい演奏をしようという熱意にあふれています。彼らも今回の「エル・システマ・フェスティバル 2013 in TOKYO」に参加し、日本の若者や音楽を愛する方たちと交流できることを楽しみにしています。

私は8歳くらいから「エル・システマ」で音楽の勉強をはじめ、ホセ・アントニオ・アブレウ博士にお会いしたのは12歳のとき。15歳になると首都のカラカスに引っ越しをして、さらに本格的なヴァイオリンや指揮の勉強をしたのです。「エル・システマ」は私にとって「家」であり、教育の機会や楽器

などすべてを与えてくれました。

アブレウ博士は、単に音楽を教えてくれた恩師というだけではなく「父親」のような存在なのです。現在も熱心に指導をしていますし、音楽を通じて大勢の若者にチャンスを与え、彼らの人生を変えた人でもあります。今回、日本で演奏するエディクソン・ルイスは、素晴らしい音楽家であり私の大切な友人。エディクソンは今や世界のコントラバス界をリードしている奏者の一人ですので、ぜひ演奏を聴いてください。

このフェスティバルによって、ベネズエラと日本の文化交流が実現することをとても幸せに思います。ぜひたくさんの方に、私たちの「エル・システマ」がいかに素晴らしいかを知っていただきたいですね。

2013年3月東京芸術劇場にて  
取材：編集部

5 芸術BUZZ JUL・AUG・SEP.2013

芸術BUZZ JUL・AUG・SEP.2013 6



Roots Vol.1 ストリッパー物語

7月10日[水]～28日[日]シアターイースト

詳細はP9・10へ



宣伝美術：永瀬祐一  
撮影：西村 淳

作：つかこうへい 構成・演出：三浦大輔  
出演：リリー・フランキー、渡辺真起子／  
渋川清彦、安藤 聖、古澤裕介、新田めぐみ、  
米村亮太郎、門脇 麦／でんでん

つかこうへいの名作を三浦大輔の冷徹な視線で再構築

現在の小劇場演劇のルーツは、'60～'70年代に「アングラ演劇」といわれた小劇場運動だ。その時代の代表作に、いま注目されている若手クリエイターが挑む、新シリーズの第1弾。過酷な被虐を笑いに転化させ、俳優を極限まで追いつめる演出で一時代を築いたつかこうへいの名作

に、ボツドール主宰の三浦大輔が挑む。ネガティブな感情を剥き出しにし、リアルな性描写を白日の下に曝して憚らない三浦が、身も心もボロボロになりながら稼ぎ続けるストリッパーと、いたぶられながら生きるヒモの歪んだ愛のストーリーを、新解釈で甦らせる。

ヒトコト

三浦大輔

有名な作品ですが、変な先入観を持たずに純粋に脚本を読んだ感覚で演出したいと思います。70年代の作品を、今自分の世代の人間が演出した時、どのような作品に仕上がるかという所を楽しみに観に来ていただきたいです。出演者も一筋縄ではいかない魅力的な方々が揃い、自分自身もとても楽しみです。

主催：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)  
東京都／東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)  
＊東京文化発信プロジェクト事業

二兎社公演38 兄帰る

8月3日[土]～9月1日[日]シアターウエスト

詳細はP11・12へ



©須藤秀之

作・演出：永井 愛  
出演：鶴見辰吾／草刈民代／堀部圭亮／  
伊東由美子／小豆畑雅一／枝元 萌／  
藤 夏子／二瓶鮫一

想定外の出来事で「安心」「信頼」が音を立てて崩れてゆく

妻子を棄てて女に走った父の20年ぶりの帰還を、母の苦勞を知る息子の目で描いたのは菊池寛の『父帰る』だった。永井愛が描くのは、多額の借金を抱えて姿をくらましていた、一家の兄の出現の話。うさん臭くも冷静に状況を把握する兄(鶴見辰吾)と、第三者的にこの一族の対応を

見つめる弟の妻(草刈民代)を前に、我欲やらおとなの事情やらで、どんどんブレてゆく家族と親戚たち。想定外の出来事により「安心」や「信頼」がなし崩しになってゆくどこぞの国の縮図にも見えて、切実なことこのうえない。永井の岸田戯曲賞受賞作、14年ぶりの再演。

ヒトコト

永井 愛

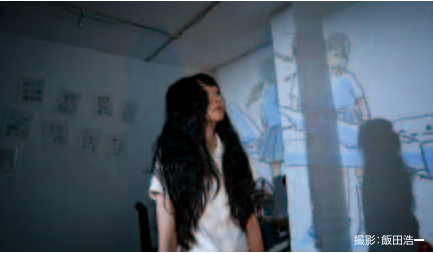
『兄帰る』の再演は私にとって宿願のようなもの。今か今かとベストタイミングを狙っていました。小さな嘘の肥大化を描いたこの家庭劇は、震災と原発事故のショックが生ぬるく変容していく今、最もふさわしい出番を迎えた気がします。新しいキャストを迎え、私も新作に向かうつもりで「中村家のちょっと怖い夏」に挑みます。

主催：二兎社 共催：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

eyes plus マームとジブシー8月公演 COCOON

8月5日[月]～15日[木]シアターイースト

詳細はP11へ



撮影：飯田浩一

作・演出：藤田貴大  
出演：青柳いづみ／伊東茄那／大岩さや／尾崎 紅／尾崎桃子／  
川崎ゆり子／橋高佑奈／菊池明明(ナイロン100℃)／  
小泉まき(俳協／中野成樹＋フランケンズ)／小宮一葉／  
中前夏来／鍋島久美子／難波 有／長谷川洋子／的場裕美／  
山崎ルキノ(チェルフィッチュ)／吉田彩乃／吉田聡子／  
李そじん／石井亮介／尾野島慎太郎

今日マチ子が描くあの時代の少女たちを、マームが身体化すると……

日常会話の断片が、視点をずらしたり、時間を隔てたりしながら、何度も繰り返されてゆくうちに詩となり、ドラマになってゆくマームとジブシーの世界。作・演出の藤田貴大は留まるところを知らないハイ・ペースで作品を発表しているが、初の海外公演を成功させた直後の新作は、昨年

「マームと誰かさん」というシリーズでコラボした漫画家・今日マチ子の代表作『cocoon』の舞台化だ。沖縄戦に動員された少女たちが体験した、想像を絶するそれぞれの過酷な日常から着想を得た物語が、ピュアで切ないマームの言葉と身体を通して立ちのぼる。

ヒトコト

マームとジブシー制作

今夏、マームとジブシーは今日マチ子が戦時中の少女たちを描いた代表作『cocoon』の舞台化に挑みます。音楽はクラムボンの原田郁子が参加。マームとジブシー、今日マチ子、原田郁子の三者が「時代」と対峙した時、何が生まれるのか。この夏、注目作になること間違いなしの本作をどうぞお見届けくださいませ。

主催：マームとジブシー 共催：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

オーバード・ホール名作ミュージカル上演シリーズ第4弾 ハロー・ドーリー！

8月23日[金]～25日[日]プレイハウス

詳細はP12へ



脚本：マイケル・スチュアート  
振付・演出：ロジャー・カステヤノ  
作詞・作曲：ジェリー・ハーマン 訳詞・演出：寺崎秀臣  
出演：剣 幸／モト冬樹／本間憲一／井料瑞美／野田久美子／  
藤岡義樹／佐藤弘樹／大内慶子／  
坂井宏彰／柳川玄奈 ほか

初演から約50年。ついにあの名作ミュージカルの翻訳上演が実現

♪ハロー・ドーリー・ウェル・ハロー～というリズムで、イ・アームストロングやバーブラ・ストライサンドの歌声は、誰もが耳にしているはず。が、ブロードウェイで'64年に初演されたミュージカルのスタンダードであるにもかかわらず、日本での翻訳上演が実現したのはなんと昨年、富山のオー

バードホールが初めてだった。長年ドーリー役を演じることを夢見ていた富山市出身の剣幸にとって「あり得ないことが起こった」この公演は、驚愕に値するハイ・レベルと絶賛され、ついにこのほど東京公演が実現。音楽人口の層の厚さで知られる富山のポテンシャルに注目！

ヒトコト

奈木 隆

NYブロードウェイが1964年の初演から大事にしている名作ミュージカル『ハロ・ドーリー！』。昨年、富山市オーバード・ホールで日本人による初の翻訳上演を実現しました。各方面から賞賛の声をいただき、この夏いよいよ東京芸術劇場に登場します！ジェリー・ハーマンの名曲にのせ、個性派キャストで贈るこの恋物語は必見です！

主催：(公財)富山市民文化事業団／富山市 共催：北日本新聞社／東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

芸劇dance 勅使川原三郎新作公演 第二の秋 Second Fall

9月6日[金]～8日[日]プレイハウス

詳細はP13へ



撮影：吉田泰子

演出・振付・美術・照明：勅使川原三郎  
出演：勅使川原三郎  
佐東利穂子／ジイフ

4年ぶりのソロは、謎めくブルーノ・シュルツの世界に魅せられて

目にする風景が時にグロテスクに、時に不安を煽るように不可思議に歪んでゆく……。シュールな魅力に満ちた、ポーランドを代表する作家・画家、ブルーノ・シュルツ(1892-1942)は、クエイ兄弟など、映像や舞台のクリエイターの創作意欲を刺激する存在でもあるようだ。勅使川原三

郎も『ドトと気違いたち』『春、一夜にして』など、シュルツの小品にインスパイアされた作品を連続して発表しており、今回の新作も、シュルツの『第二の秋』を始めとした短編のいくつかを編んで構成する。作家の言葉に共振するダンサーの身体から、見えてくるものは。

ヒトコト

勅使川原三郎

装置と照明もデザインするが、物質空間と光の重層性をテーマに造られるだろう。人体との葛藤も作品全体の重要な要素になる。今年に入ってから2作のシュルツ原作のダンス公演を行ったが、この新作はより強固に、より核心的に創作したい。

主催：有限会社カラス 共催：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

芸劇eyes キリンバズウカ マチワビ

9月19日[木]～25日[水]シアターイースト

詳細はP14へ



「マッチアップ・パンク」 撮影：内堀義之

脚本・演出：登米裕一  
出演：日榮洋祐、こいけけいこ／加藤理恵、上鶴徹、黒岩三佳、  
後藤剛範(国分寺大人倶楽部)、永島敦三(柿食う客)、  
松永渚、森下亮(クロムモリブデン)／  
内田悠一(レボリューションズ)、折原アキラ(青年団)、  
金聖香(SET)、坂田麻衣、助川紗和子、渡邊亮

公演ごとに人気加速中の話題の劇団、芸劇に初登場

有望な若い演劇人を紹介してきた「芸劇eyes」。ここで初めて知る未知の才能との出会いも、この劇場に通う楽しみのひとつになってきた。今回初登場のキリンバズウカは、'80年生まれでシナリオライターでもある登米裕一(脚本・演出)が率いる劇団。重たい話をサラッと笑える

群像劇に仕立てて共感を得てきた。今回作品は、都会になりきれない街で働く人や家族を、オリジナル楽曲と『ままごと』や商業演劇でも活躍する青木拓也の美術で、丁寧に人間くささたつぷりに描いてゆく。

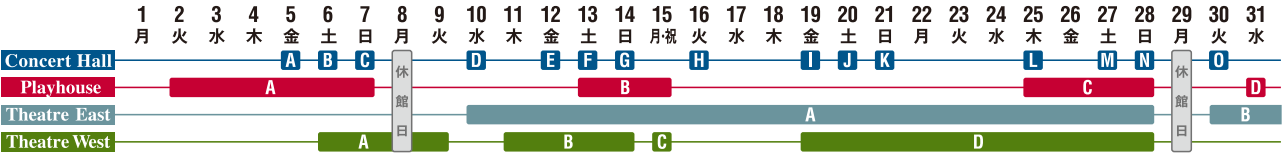
ヒトコト

登米裕一

生きる事は無様で滑稽で、それでも素晴らしい。どうしようもない人たちがたくさん出てくる舞台ではあるのだけれど彼らは日々懸命に生きているだけなのだ。そんな人々の物語を責任を持ってお届けしたいと考えている。願わくば無責任にただ見届けていただけたらと願う。劇場でお待ちしております。

主催：キリンバズウカ 共催：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)





Concert Hall

**A 5日[金]** 19:00開演  
国立音楽大学  
第54回プラスオルケスター定期演奏会

**出演** フランソワ・ブーランジェ (Cond) / アンドレ・アンリ (Tp) / 国立音楽大学プラスオルケスター  
**曲目** トマジノトランペット協奏曲 ほか  
**料金** S:1,500円/A:1,000円  
**TEL** 国立音楽大学演奏課 042-535-9535

**B 6日[土]** 14:30・19:00開演  
佐村河内 守作曲  
交響曲第1番《HIROSHIMA》

**出演** アレクサンドル・アニシモフ (Cond) / 東京フィルハーモニー交響楽団  
**曲目** 佐村河内 守 / 交響曲第1番《HIROSHIMA》  
**料金** S:7,500円/A:6,500円/B:5,000円  
**TEL** サモンプロモーション 0120-499-699

**C 7日[日]** 14:00開演  
学習院OB管弦楽団 第67回定期演奏会

**出演** 三石精一 (Cond) / 山田英津子 (Sop) / 藤牧正充 (Ten) / 須藤慎吾 (Bar) / 学習院OB管弦楽団 / 学習院OB合唱団 / 学習院初等科合唱部  
**曲目** メンデルスゾーン / 序曲「フィンガルの洞窟」  
シューベルト / 交響曲第8番「未完成」  
オルフ / カルミナ・ブラーナ  
**料金** 2,000円  
**TEL** 学習院OB管弦楽団 (団長・中村) 0422-22-4518

Playhouse

**A 2日[火]~7日[日]**  
ネビュラプロジェクト・プロデュース公演 シレンシオ

**作・演出** 小野寺修二  
**出演** 原田知世 / 梶原暁子 / 川合ロン / 藤田桃子 / 小野寺修二 / 首藤康之  
**料金** S (1階) :6,800円 / A (2階) :6,300円 / 中高生シート:1,000円  
※中高生シートは引換券となります。公演当日、劇場受付にて学生証をご提示のうえ指定席券とお引換ください。(公式サイト・東京芸術劇場ボックスオフィスのみ取扱)  
**TEL** ナッパスユナイテッド 03-5342-0909

7月	2火	3水	4木	5金	6土	7日
14:00				●		●●
19:00	●	●	●	●	●	



©タカノリュウダイ

Theatre East

**A 10日[水]~28日[日]**  
Roots vol.1  
ストリッパー物語

**作** つかこうへい  
**構成・演出** 三浦大輔  
**出演** リリー・フランキー、渡辺真起子 / 渋川清彦、安藤 聖、古澤裕介、新田めぐみ、米村亮太郎、門脇 麦 / でんでん  
**料金** 【全席指定】一般:5,500円 / 高校生割引:1,000円 / 25歳以下:3,500円 / 65歳以上:4,000円  
※枚数限定・前売のみ・要証明書 ※障害をお持ちの方は割引料金でご観劇いただけます。詳しくは劇場ボックスオフィスまたは劇場HPまで。  
**TEL** 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

7月	10水	11木	12金	13土	14日	15月祝	16火	17水	18木	19金	20土	21日	22月	23火	24水	25木	26金	27土	28日
14:00				●●	●		休				●●	◎	休	★				●●	
19:00	●●	●●	●		●●		●●	●●	●●	●●	●●	●●	◎	休	★	●●	●●	●●	●●

◎＝聴覚障害をお持ちの方に字幕提供 / 目の不自由な方への舞台説明会あり (要予約)  
★＝舞台映像撮影のため、場内にカメラが設置されます。予めご了承ください。

Theatre West

**A 6日[土]~9日[火]**  
韓国凱旋連続公演 道玄哀歌

**料金** 【全席指定】前売:4,500円  
当日:5,000円  
**TEL** 新宿梁山泊事務所 03-3385-7971

7月	6土	7日	8月	9火
14:00	●●	●●	休	●
19:00	●●	●●	演	

**B 11日[木]~14日[日]**  
韓国凱旋連続公演 百年〜風の仲間たち〜

**料金** 【全席指定】前売:4,500円  
当日:5,000円  
**TEL** 新宿梁山泊事務所 03-3385-7971

7月	11木	12金	13土	14日
14:00		●●	●●	●●
19:00	●●	●●	●●	

東京芸術劇場ホームページ [www.geigeki.jp](http://www.geigeki.jp)

お問合せ | 東京芸術劇場  
ボックスオフィス **0570-010-296** [ 休館日を除く 10:00~19:00 ]

休館日 | 8日(月)・29日(月)

休館日の施設のご利用案内及びお電話でのお問合せ受付は行っておりません。  
また、館内店舗(一部店舗を除く)は閉店しておりますのでご了承ください。  
※原則未就学児のご入場はお断りしています。

音楽略号:指揮(Cond)/ソプラノ(Sop)/アルト(Alt)/テノール(Ten)/バリトン(Bar)/バス(Bass)/ヴァイオリン(Vn)/トランペット(Tp)/ホルン(Hr)/ピアノ(Pf)/オルガン(Org)

**I 19日[金]** 18:30開演  
NIPPON SYMPHONY CONCERT  
Vol.21

**出演** 新田 孝 (Cond) / 田中照子 (Pf) / 中澤きみ子、岡本誠司 (Vn) / NIPPON SYMPHONY  
**曲目** メトネル / ピアノ協奏曲第1番 (日本初演)  
ベートーヴェン / 交響曲「田園」  
山田耕作 / からのたちの花  
ヴィヴァルディ / ニつのヴァイオリンの為の協奏曲  
マスネ / タイスの瞑想曲  
サン＝サーンス / 序奏とロンド・カプリチオーソ  
サラサーテ / チゴイネルワイゼン  
**料金** SS:7,000円 / S:6,000円 / A:5,000円 / B:4,000円  
**TEL** NIPPON SYMPHONY 090-6927-3447

**J 20日[土]** 14:00開演  
パイオニア・ミューズ・コンサート2013  
クラシック名曲集〜どこかで聴いたあのメロディー〜

**出演** 佐藤 宏 (Cond) / 壇 ふみ (ナビゲーター) / 小林厚子 (Sop) / 坂本伸司 (Bar) / 新山恵理 (Org) / パイオニア合唱団 / パイオニア交響楽団 / 東京パイプバンド (バグパイプ)  
**曲目** ヴェルディ / 「アイーダ」より〈凱旋の合唱〉  
ヘンデル / ハレルヤ  
J.S.バッハ / 主よ人の望みの喜びよ  
ワーグナー / 「ニュルンベルクのマイスター・ジンガー」より(第1幕への前奏曲)  
ボロディン / タツタン人の踊り  
日本唱歌メドレー  
モーツァルト / 「レクイエム」より〈ラクリモザ〉  
フォーレ / ラ・シエズ讃歌 ほか  
**料金** S:3,000円 / A:2,500円 / B:2,000円  
**TEL** パイオニア合唱団事務局 080-3080-9941

**K 21日[日]** 11:00・14:00開演  
日本フィル 夏休みコンサート2013  
第206回サンデーコンサート

**出演** 川瀬賢太郎 (Cond) / 江原陽子 (歌とお話) / スターダンサーズバレエ団 / 日本フィルハーモニー交響楽団  
**曲目** メンデルスゾーン / 結婚行進曲  
ジョン・ウィリアムズ / 「スターウォーズ」より〈メインタイトル〉 ほか  
チャイコフスキー / バレエ「くるみ割り人形」(日本フィル夏休みコンサート版)  
みんなで歌おう! (さんぽ・海・ウィーゴー!) ほか  
**料金** 【子供】S:3,200円 / A:2,500円 / B:1,800円  
【大人】S:5,000円 / A:4,000円 / B:3,000円  
**TEL** 日本フィルサービスセンター 03-5378-5911

**L 25日[木]** 12:15開演  
東京芸術劇場ランチタイム・パイプオルガンコンサート  
Vol.100

**出演** 小林英之、新山恵理、平井靖子 (Org) **無 料**  
**曲目** 未定  
**料金** 入場無料  
**TEL** 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

**M 27日[土]** 14:30開演  
東京ニューシティ管弦楽団  
第89回定期演奏会

**出演** 秋山和慶 (Cond) / 佐藤麻理 (Pf) / 東京ニューシティ管弦楽団  
**曲目** ブラームス / ピアノ協奏曲第1番、交響曲第2番  
**料金** S:6,000円 / A:4,500円 / B:3,000円 / C:2,000円 / リラックスシート:3,000円  
**TEL** 一般社団法人東京ニューシティ管弦楽団チケットダイヤル 03-5933-3266

**N 28日[日]** 14:00開演  
新交響楽団 第222回演奏会

**出演** 山下一史 (Cond) / 新交響楽団  
**曲目** ブラームス / 交響曲第3番  
R.シュトラウス / 交響詩「ツァラトゥストラはかく語りき」  
**料金** S:3,000円 / A:2,500円 / B:1,500円  
**TEL** コンサートイマジネ 03-3235-3777

**O 30日[火]** 19:00開演  
カナディアン・プラス

**出演** カナディアン・プラス (金管五重奏団)  
**曲目** ヘンデル / シバの女王の入城  
ダウランド / おいで、さあかわいい恋人よ  
バッハ / 幻想曲とフーガ  
ブラームス / コラール前奏曲 第10番  
シューマン / 「子供の情景」「謝肉祭」より  
ザ・ビートルズ / ペニー・レイン  
モートン / グランバ・スベール おじいちゃんのおまじない  
ロドリゲス / ラ・クンパルシータ  
ブラームス / ワルツ・セレクション  
エリントン / スwingしなけりゃ意味ないね  
トリビュート to バレエ  
**料金** S:5,000円 / A:4,000円 / 学生:3,000円  
**TEL** プロ アルテ ムジケ 03-3943-6677

**B 13日[土]~15日[月・祝]**  
ミュージカル 王様と私

**料金** 【全席指定】3,500円  
**TEL** 東宝テレザープ 03-3201-7777

7月	13土	14日	15月祝
13:00	●●	●●	
14:00	●●		
18:00		●●	

**C 25日[木]~28日[日]**  
ミュージカル 葉っぱのフレディ ーいのちの旅ー

**料金** 【全席指定】S:5,000円 / A:3,500円  
※小学生以下各500割引、3才以下入場不可  
**TEL** 東京音協 03-5774-3030  
お問合せ | フレディ・カンパニー 0422-57-4581

7月	25木	26金	27土	28日
13:00		●●	●●	
14:00				貸切
16:30		●●	●●	
18:30	●●			

**D 31日[水]** 15:00・19:00開演  
折田克子舞踊生活70周年記念公演

**料金** 【全席指定】前売S:4,500円 / A:4,000円  
当日S:5,000円 / A:4,500円  
**TEL** 折田オフィス 03-3952-1213

**B 30日[火]~8月1日[木]** Closed・関係者のみ  
地域創造フェスティバル2013



リリー・フランキー



渡辺真起子



でんでん

**C 15日[月・祝]** 13:30開演  
古今亭菊志ん独演会  
古今亭菊志ん「じぶんの落語」〜信じつ付たいものがあるから、Vol.3〜

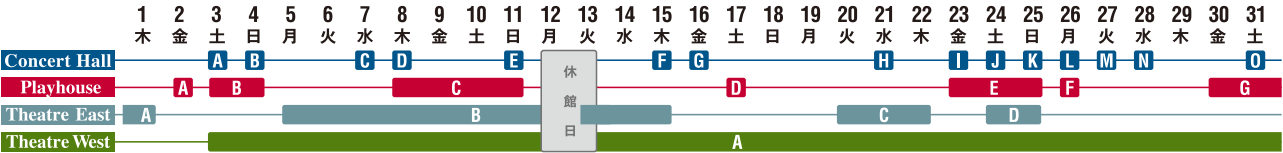
**料金** 【全席指定】前売・当日:3,000円  
**TEL** 東京音協 03-5774-3030 (平日10:00-17:30)

**D 19日[金]~28日[日]**  
ワーニャ伯父さん

**料金** 【全席指定】前売・当日:5,500円  
学生:3,500円  
ペアチケット:10,000円  
**TEL** 演劇集団円 03-5828-0654

7月	19金	20土	21日	22月	23火	24水	25木	26金	27土	28日
15:00		●●	●●		●●	●●			●●	●●
19:00	●●			●●	●●	●●	●●	●●		





Concert Hall

**A 3日[土]** 14:00開演  
日本フィル 夏休みコンサート2013  
サンデースペシャル

**出演** 園田隆一郎 (Cond) / 江原陽子 (歌とお話) / スターダンサーズバレエ団 / 日本フィルハーモニー交響楽団

**曲目** メンデルスゾーン / 結婚行進曲  
ジョン・ウィリアムズ / 「スターウォーズ」より  
＜メインタイトル＞ほか  
チャイコフスキー / バレエ「くるみ割り人形」  
＜日本フィル夏休みコンサート版＞  
みんなで歌おう! (さんぽ・海・ウィーゴー!) ほか

**料金** 【子供】S:3,200円/A:2,500円/B:1,800円  
【大人】S:5,000円/A:4,000円/B:3,000円

**TEL** 日本フィルサービスセンター 03-5378-5911

**B 4日[日]** 14:00開演  
第31回日本ナショナル・ミュージック・キャンプ  
ジュニア・フィルハーモニック・オーケストラ  
サマーコンサート2013

**出演** キンポー・イシイ=エトウ、川瀬賢太郎 (Cond) / ジュニア・フィルハーモニック・オーケストラ

**曲目** モーツァルト / 歌劇「フィガロの結婚」より (抜粋)  
ラフマニノフ / 交響的舞曲 ほか

**料金** S:2,500円/A:1,500円

**TEL** ジュニア・フィルハーモニック・オーケストラ  
03-3748-5441

Playhouse

**A 2日[金]** 19:00開演

瀧川鯉昇・柳家喬太郎 古典こもり

**料金** 【全席指定】3,600円 **TEL** 夢空間 03-5785-0380

**B 3日[土]・4日[日]**

第15回東京03単独公演 露骨中の露骨

**料金** 【全席指定】5,500円  
**TEL** インフォメーションダイヤル 03-57793-8878(平日13:00～18:00)

8月	3 土	4 日
13:00		●
17:00		●
19:00	●	

**C 8日[木]～11日[日]**

ブロードウェイ・ミュージカル フットルース

**料金** 【全席指定】S:9,500円/A:8,500円/B:7,500円  
**TEL** スイセイ・ミュージカル 042-370-8035

8月	8 木	9 金	10 土	11 日
13:00		●	●	
14:00				●
18:30	●	●	●	

**D 17日[土]** 18:00開演

文化庁委託事業 平成25年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業  
現代舞踊新進芸術家育成Project.1  
全国新進舞踊家による現代舞踊フェスティバル in 東京

**料金** 【全席自由】3,000円  
**TEL** 社団法人 現代舞踊協会 03-5457-7731

Theatre East

**A ～1日[木]** Closed・関係者のみ  
地域創造フェスティバル2013

**eyes plus**  
マームとジブシー8月公演 COCOON

**作・演出** 藤田貴大

**出演** 青柳いづみ / 伊東茄那 / 大岩さや / 尾崎 紅 / 尾崎桃子 / 川崎ゆり子 / 橘高佑奈 / 菊池明明 (ナイロン100℃) / 小泉まき (俳協 / 中野成樹+フランケンズ) / 小宮一葉 / 中前夏来 / 鍋島久美子 / 難波 有 / 長谷川洋子 / 的場裕美 / 山崎ルキノ (チェルフィッチュ) / 吉田彩乃 / 吉田聡子 / 李そじん / 石井亮介 / 尾野島慎太郎

**料金** ご予約:4,000円/当日:4,500円/高校生割引:1,000円 ※枚数限定・要証明書。 **TEL** マームとジブシー 090-9137-8647

8月	5 火	6 水	7 木	8 金	9 土	10 日	11 月	12 月	13 火	14 水	15 木
15:00			●	●		●	●	休		●	●
19:00	●	●	●	●	●	●	●	休	演	●	●

Theatre West

**A 3日[土]～9月1日[日]**

二兎社公演<sup>※</sup> 兄帰る

**作・演出** 永井 愛 **出演** 鶴見辰吾 / 草刈民代 / 堀部圭亮 / 伊東由美子 / 小豆畑雅一 / 枝元 萌 / 藤 夏子 / 二瓶鮎一

**料金** 【全席指定】一般:5,500円/25歳以下割引:3,000円 (要証明書。ぶれいず・東京芸術劇場ボックスオフィス・チケットぴあ店舗にて取り扱い)

プレビュー割引 8/3(土) 一般:4,500円  
お盆割引 8/14(水)～18(日) 昼夜とも 一般:5,000円 ○この期間に限り中高生夏休み特別割引:1,000円 (要証明書。東京芸術劇場ボックスオフィス、ぶれいずのみ扱い)

**TEL** 二兎社 03-3991-8871 (平日10:00～18:00)

東京芸術劇場ホームページ [www.geigeki.jp](http://www.geigeki.jp) | 休館日 | 12日(月)・13日(火) ※一部開館

お問合せ | 東京芸術劇場  
ボックスオフィス **0570-010-296** [休館日を除く 10:00～19:00]

休館日の施設のご利用案内及びお電話でのお問合せ受付は行っておりません。  
また、館内店舗(一部店舗を除く)は閉店しておりますのでご了承下さい。  
※原則未就学児のご入場はお断りしています。

音楽略号:指揮(Cond) / ソプラノ(Sop) / ピアノ(Pf) / バリトン(Bar) / テノール(Ten) / オルガン(Org) / ポジティブオルガン(Pos) / ヴァイオリン(Vn) / チェロ(Vc) / ギター(Gt) / クラリネット(Cl)

**H 21日[水]** 18:30開演  
読響サマーフェスティバル《三大交響曲》

**出演** 広上淳一 (Cond) / 読売日本交響楽団

**曲目** シューベルト / 交響曲第7番「未完成」  
ベートーヴェン / 交響曲第5番「運命」  
ドヴォルザーク / 交響曲第9番「新世界から」

**料金** S:7,000円/A:5,000円/B:4,000円/C:3,000円

**TEL** 読響チケットセンター 0570-00-4390

**I 23日[金]** 19:00開演  
シンフォニック エンタテインメント Vol.5  
サンデーコンサートスペシャル

**出演** 渡辺俊幸 (Cond) / さだまさし / 日本フィルハーモニー交響楽団

**曲目** 渡辺俊幸 / NHK朝の連続テレビ小説「おひさま」主題曲、NHK大河ドラマ「利家とまつ」主題曲 ほか

**料金** S:8,000円/A:6,000円/B:4,000円/GS:4,000円/YS:3,500

**TEL** 日本フィルサービスセンター 03-5378-5911

**J 24日[土]** 14:00開演  
東京都交響楽団《チャイコフスキー》  
(作曲家の肖像シリーズVol.93)

**出演** リュウ・ジャオチャ (Cond) / コリヤ・ブラッハー (Vn) / 東京都交響楽団

**曲目** チャイコフスキー / 歌劇「エフゲニー・オネーギン」より(ボロネーズ)、  
バイオリン協奏曲、組曲第3番

**料金** S:5,800円/A:4,800円/B:3,800円/C:2,800円/Ex:2,000円

**TEL** 都響ガイド 03-3822-0727

**K 23日[金]～25日[日]**

オーバード・ホール名作ミュージカル上演シリーズ第4弾  
ハロー・ドーリー!

**脚本** マイケル・スチュアート **振付・演出** ロジャー・カステヤノ

**作詞・作曲** ジェリー・ハーマン **訳詞・演出** 寺崎秀臣

**出演** 剣 幸 / モト冬樹 / 本間憲一 / 井料理美 / 野田久美子 / 藤岡義樹 / 佐藤弘樹 / 大内慶子 / 坂井宏彰 / 柳川玄奈 ほか

**料金** 【全席指定】一般:8,000円  
※以下のチケットは、東京芸術劇場ボックスオフィスのみ取扱。  
※車椅子席…8,000円  
※障害者割引…障害者手帳を提示されたご本人と同伴者1名を10％割引。  
※高校生割引:1,000円 (枚数限定・前売りのみ・要証明書)

**TEL** 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

**K 25日[日]** 14:00開演  
第49回 日伊声楽コンクール入賞者披露記念  
イタリア・オペラ名曲アリア・コンサート

**出演** 現田茂夫 (Cond) / 各入賞者 / 中丸三千繪 (Sop) / 読売日本交響楽団

**曲目** 未定 **料金** 未定

**TEL** 読売新聞文化事業部 03-3561-6346

**L 26日[月]** 19:00開演  
東京都交響楽団 名曲とオペラに親しむ  
みらいのTOKYOドリームコンサート

**出演** 梅田俊明 (Cond) / 勝山大輔 (Cl) / 吉原圭子 (Sop) / 又吉秀樹 (Ten) / 友清 崇 (Bar) / 東京都交響楽団

**曲目** ヴェルディ / オペラ「アイーダ」より(凱旋行進曲)  
ドヴォルザーク / 交響曲第9番「新世界」より第4楽章  
ヴェルディ / オペラ「プッチーニ」ハイライト **無料**

**料金** 無料 (要往復ハゲキまたはインターネット事前応募、7月26日必着。インターネット申込みは同日17時)  
※都内在住・在勤・在学対象

**TEL** 「東京都人材支援事業団みらいのTOKYOドリームコンサート」事務局 03-3868-0566

**M 27日[火]** 14:00開演  
東京芸術劇場ティータイム・コンサート Vol.1

**出演** 原田靖子 (Pos) **無料**

**曲目** 未定

**料金** 入場無料

**TEL** 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

**N 26日[月]** 18:30開演

産経新聞創刊80周年 立川志の輔独演会

**料金** 【全席指定】4,000円 **TEL** サンケイリビング新聞社 03-5216-9235

**O 30日[金]～9月1日[日]**

コンドルス日本横断超時空ツアー2013  
TIME IS ON MY SIDE

**料金** 【全席指定】5,000円  
**TEL** ROCK STAR有限会社 03-5272-0991

8・9月	30 金	31 土	1 日
14:00		●	
15:00			●
19:00		●	
19:30	●		

**P 24日[土]・25日[日]**

オックスフォード大学演劇協会(OUDS)来日公演 間違いの喜劇

**作** ウィリアム・シェイクスピア

**演出・出演** オックスフォード大学演劇協会 (OUDS)

**料金** 【全席指定】一般:2,500円 / 学生:2,000円 / ※高校生:1,000円  
※前売のみ・要証明書。

**TEL** 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

8月	24 土	25 日
13:00		●
18:00		●
19:00	●	

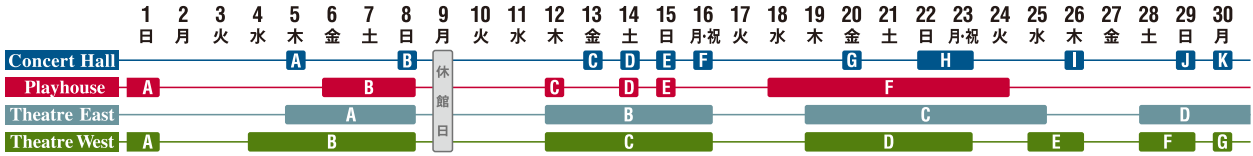


8・9月	3 土	4 日	5 月	6 火	7 水	8 木	9 金	10 土	11 日	12 月	13 火	14 水	15 木	16 金	17 土	18 日	19 月	20 火	21 水	22 木	23 金	24 土	25 日	26 月	27 火	28 水	29 木	30 金	31 土
14:00	★	●			休	●	●	●	●	休		●	●	●	●	●	休	●	●	●	●	●	●	休	●	●	●	●	●
19:00	17:00	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

★8/3(土)プレビュー公演＝17:00開演 ○8/14(水)～18日(日)お盆割引期間  
■終演後トーク:詳細決定後にHPにて発表。  
■託児サービスキッズルームあり。お問合せ・お申込＝芸術キッズルーム ミューズ TEL:03-3981-7003 観劇日1週間前までに要予約。(定員あり)  
■車椅子席:お問合せ・お申込＝ぶれいず 03-5468-8113(観劇日の3日前までに申込)







Concert Hall

**A**5日[木] Closed・関係者のみ

平成25年度 千代田区音楽鑑賞教室

**B**8日[日] 14:00開演

読売日本交響楽団  
第158回東京芸術劇場マチネーシリーズ

出演 シルヴァン・カンブルラン(Cond)／読売日本交響楽団

曲目 ドビュッシー／春のロンド(管弦楽のための「映像」から)  
シューマン／交響曲第1番 「春」  
ストラヴィンスキー／バレエ音楽「春の祭典」(初演100周年)

料金 S:7,000円／A:5,000円／B:4,000円／C:3,000円／  
ジュニア:1,500円

TEL 読響チケットセンター 0570-00-4390

**C**13日[金] 19:00開演

東京芸術劇場コンサートオペラvol.1  
バルトーク《青ひげ公の城》

出演 井上道義(Cond)／

コヴァーチ・イシュトヴァーン(青ひげ公／Bass)／  
メラーズ・アンドレア(ユードイト／Ms)／  
仲代達矢(吟遊詩人)／東京フィルハーモニー交響楽団

曲目 オッフェンバック(ロザンタール編曲)／バレエ音楽「バリの喜び」  
バルトーク／歌劇「青ひげ公の城」(演奏会形式)

料金 S:6,500円／A:5,500円／B:4,000円／C:3,000円／  
D:2,000円

TEL 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

**D**14日[土] 14:30開演

東京ニューシティ管弦楽団  
第90回定期演奏会

出演 アンドレイ・アニハーフ(Cond)／小山裕幾(FI)／  
東京ニューシティ管弦楽団

曲目 ～フランス音楽の扉を開く～  
ラヴェル／マ・メール・ロア 管弦楽のための舞踏詩「ラ・ヴァルス」  
ジョリヴェ／フルートと弦楽合奏のための協奏曲  
ムソルグスキー／組曲「展覧会の絵」(ラヴェル版)

料金 S:6,000円／A:4,500円／B:3,000円／C:2,000円／  
リラックスシート:3,000円／

学生:半額(S除く)／  
小中高生:1,000円(S除く、保護者同伴)／  
シニア10%引き(60才以上)

TEL 一般社団法人東京ニューシティ管弦楽団チケットダイヤル  
03-5933-3266

東京芸術劇場ホームページ www.geigeki.jp

お問合せ 東京芸術劇場  
ボックスオフィス 0570-010-296

休館日 9日(月)

休館日の施設のご利用案内及びお電話でのお問合せ受付は行っておりません。  
また、館内店舗(一部店舗を除く)は閉店しておりますのでご了承下さい。  
※原則未就学児のご入場はお断りしています。

音楽略号:指揮(Cond)／メソソプラノ(Ms)／バス(Bass)／ボーカル(Vo)／フルート(FI)／クラリネット(CI)／オルガン(Org)

**E**15日[日] 14:00開演

としま区民芸術祭

豊島区吹奏楽団 第37回定期演奏会

出演 大釜宏之(Cond)／豊島区吹奏楽団

曲目 ヴェルティ／「アイーダ」より〈凱旋行進曲〉  
リード／吹奏楽のための第2組曲「ラティノー・メキシカーナ」  
ドス／聖フローリアン・コラル  
グレイアム／ハリソンの夢  
コダーイ／「ハーリ・ヤーノシュ」組曲

料金 一般:800円／高校生以下:500円／友の会:500円

TEL としまみらいチケットセンター 03-3590-5321

**F**16日[月・祝] 14:00開演

フィルハーモニックアンサンブル管弦楽団  
第55回演奏会

出演 矢崎彦太郎(Cond)／金子 平(CI)／  
フィルハーモニックアンサンブル管弦楽団

曲目 モーツァルト／クラリネット協奏曲  
マーラー／交響曲第7番「夜の歌」

料金 S:3,000円／A:2,500円

TEL PEO事務局 03-3943-2707

**G**20日[金] 18:30開演

メニコンスーパーコンサート2013

歌劇「あしたの瞳」～もうひとつの未来

出演 宮川彬良(作曲・指揮)／  
安富泰一郎／塚本伸彦／松波千津子／楠永陽子／  
安田旺司 ほか／新日本フィルハーモニー交響楽団

曲目 歌劇「あしたの瞳」～もうひとつの未来  
作曲:宮川彬良／脚本:響 敏也／演出:佐久間広一郎

料金 S:5,000円／A:3,000円／B:2,000円／C:1,000円

TEL 「あしたの瞳」制作実行委員会事務局 052-957-3681

**H**22日[日]17:00開演・23日[月・祝]16:00開演  
Mai Kuraki Symphonic Live -Opus 2-

出演 倉木麻衣(Vo) ほか

曲目 未定

料金 12,000円

TEL H.I.P. 03-3475-9999

**I**26日[木] 12:15開演

東京芸術劇場ランチタイム・パイプオルガンコンサート  
Vol.101

出演 永瀬真紀(Org)

曲目 未定

料金 500円

TEL 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

**J**29日[日] 14:00開演

東京ガス管弦楽団 第13回定期演奏会

出演 田尻真高(Cond)／東京ガス管弦楽団

曲目 メンデルスゾーン／序曲「フィンガルの洞窟」  
ブラームス／ハイドンの主題による変奏曲  
ベートーヴェン／交響曲第7番

料金 1,000円

TEL 東京ガス管弦楽団 事務局 050-3634-6160

**K**30日[月] Closed・関係者のみ

城西大学附属城西中学・高等学校  
第36回音楽祭

Playhouse

**A**～1日[日] 15:00開演

コンドルズ日本横断超時空ツアー2013

TIME IS ON MY SIDE

料金 【全席指定】5,000円

TEL ROCK STAR有限会社 03-5272-0991

**B**6日[金]～8日[日]

芸劇dance 勅使川原三郎新作公演

第二の秋 Second Fall

演出・振付・美術・照明 勅使川原三郎

出演 勅使川原三郎  
佐東利穂子／ジイフ

料金 一般S:5,500円／一般A:4,000円／  
65歳以上割引:4,500円／  
25歳以下割引:3,000円／高校生割引:1,000円

TEL KARAS(カラス) 03-3682-7441

9月	6金	7土	8日
16:00		●	●
20:00	●		

**C**12日[木] 18:30開演

としま能の会

料金 【全席指定】S:3,500円／A:3,000円／

友の会S:3,200円／友の会A:2,700円

TEL 公益財団法人としま未来文化財団 03-3590-7118

**D**14日[土] 15:00開演

としま区民芸術祭／区民参加によるアートステージ

音楽ひろばに ♫夢と願いを

料金 【全席指定】S:3,000円／A:2,500円／

友の会S:2,500円／友の会A:2,000円

TEL 公益財団法人としま未来文化財団プランセクション  
03-3590-7118

**E**15日[日] 12:00開演

としま区民芸術祭

華麗なる彩り

料金 【全席自由】一般:3,000円／友の会:2,500円

TEL としまみらいチケットセンター 03-3590-5321

**F**18日[水]～24日[火]

40カラット

料金 【全席指定】S:9,000円／A:5,000円

TEL 松竹株式会社演劇興行部 03-5550-1685

9月	18水	19木	20金	21土	22日	23月	24火
13:00				●	●	●	
14:00		休	●				●
17:30		演	●	●			
18:30	●	●					

Theatre East

**A**5日[木]～8日[日] 開演時間未定

東京演劇大学連盟 2013共同制作 vol.1

わが町 ソーントン・ワイルダー作

作 ソーントン・ワイルダー

出演 東京演劇大学連盟加盟校在校生

料金 一般:2,000円／大学生:1,500円／高校生:1,000円

TEL 東京演劇大学連盟 共同制作実行委員会 03-5995-8260(日本大学芸術学部 演劇学科内)

**B**12日[木]～16日[月・祝]

芸劇eyes番外編 第二弾

God save the Queen

参加団体(作・演出) うさぎストライプ(大池容子)

タカハ劇団(高羽 彩)  
鳥公園(西尾佳織)  
ワワフラミンゴ(鳥山フキ)  
Q(市原佐都子) ※五十音順

料金 【日時指定・整理番号付自由席】前売:2,500円／当日:2,800円／高校生割引:1,000円  
※高校生割引チケットは東京芸術劇場ボックスオフィスにて前売のみ取扱い(枚数限定・要証明書)

TEL 東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

9月	12木	13金	14土	15日	16月
14:00			●	●	●
19:00	●	●	●	●	

**C**19日[木]～25日[水]

芸劇eyes

キリンバスウカ マチワビ

脚本・演出 登米裕一

出演 日栄洋祐、こいけけいこ／加藤理恵、上鶴徹、黒岩三佳、  
後藤剛範(国分寺大人倶楽部)、永島敬三(柿食う客)、  
松永渚、森下亮(クロムモリブデン)／  
内田悠一(レボリューションズ)、折原アキラ(青年団)、  
金聖香(SET)、坂田麻衣、助川紗和子、渡邊亮

料金 【前売指定】3,500円【当日指定】3,800円

【前売・当日指定】高校生以下1,000円 ※ご来場の際は、受付にて学生証をご提示下さい

TEL キリンバスウカ 090-8575-3643(11:00～20:00)

9月	19木	20金	21土	22日	23月	24火	25水
14:00			●			★	
15:00				★			●
18:00			●				
19:30	●	●			●	▲	

▲＝ビデオ撮影のため、場内にカメラが設置されます。  
予めご了承ください  
★＝ポストトーク等のイベントあり

**D**28日[土]～10月6日[日]

第25回池袋演劇祭参加作品

風 ーふうー

料金 【前売指定】3,800円【当日自由】3,800円

TEL 劇団ZAPPA 080-3129-4930

9-10月	28土	29日	30月	10/1火	2水	3木	4金	5土	6日
11:30									●
14:00			●	●			●	●	
16:30									●
19:00	●	●	●	●	●	●	●	●	

Theatre West

**A**～1日[日]14:00開演

二兎社公演

兄帰る

作・演出 永井 愛

出演 鶴見辰吾／草刈民代／堀部圭亮／伊東由美子／  
小豆畑雅一／枝元 萌／藤 夏子／二瓶鮎一

料金 【全席指定】一般:5,500円／25歳以下割引:3,000円

(要証明書、ふれいず・東京芸術劇場  
ボックスオフィス・チケットぴあ店舗  
にて取り扱い)

TEL 二兎社 03-3991-8871(平日10:00～18:00)

**B**4日[水]～8日[日]

第25回池袋演劇祭参加作品

上手に笑えないまさこさん

料金 【全席指定】前売:4,000円

当日:4,500円

学割:2,800円

TEL ベテカン 03-5944-8750

9月	4水	5木	6金	7土	8日
13:00				●	●
14:00			●		
17:00				●	
19:00	●	●			

**C**12日[木]～16日[月・祝]

第25回池袋演劇祭参加作品

フォアローゼス

料金 【全席指定】前売:3,500円

当日:3,800円

学割:2,500円

TEL ゲキバカ制作部  
090-4413-6300

9月	12木	13金	14土	15日	16月
13:00					●
14:00			●	●	
17:00					●
19:00	●	●	●	●	

**D**19日[木]～23日[月・祝]

第25回池袋演劇祭参加作品

舞台 ブラネタリウムを作りました。

料金 【全席指定】前売:3,500円／当日:4,000円

TEL 宇宙食堂 03-3306-0445

9月	19木	20金	21土	22日	23月
14:00			●	●	
19:00	●	●	●	●	

**E**25日[水]・26日[木]

第25回池袋演劇祭参加作品

Dance Live Reach vol.17  
～The 7 Lucky Guys 2～

料金 【前売指定】S:5,000円

A:4,000円

【前売自由】3,000円

【当日指定】S:5,500円

A:4,500円

【当日自由】3,500円

TEL Reach事務局  
080-5880-0133

9月	25木	26金
13:00		●
15:00	●	
19:00		●
20:00	●	

**F**28日[土]・29日[日]

第25回池袋演劇祭参加作品

東の風の吹くとき

料金 【全席自由】前売:2,500円

当日:3,000円

【高校生以下・全席自由】

前売:1,500円

当日:2,000円

TEL いわき演劇の会事務局  
090-1934-5416

9月	28土	29日
13:30	貸切	●
18:30	●	

**G**30日[月] 18:30開演

芸劇落語会

料金 未定

TEL 未定



最新の催物日程は東京芸術劇場ホームページ  
www.geigeki.jpで随時更新しています。

Gallery 1			
7	1日[月]～7日[日] 第21回 新和様・漢字造型作家協会 選抜展 〒〒〒石橋 03-3234-3956	19日[金]～24日[水] Gallery 1・2 同時開催 第42回 鳴鶴流天溪会書道展 〒〒〒川村 090-8720-4872	30日[火]～8月1日[木] Closed・関係者のみ 地域創造フェスティバル2013
8	15日[木]～18日[日] 第11回 創書展 〒〒〒知久 090-3598-9622	19日[月]～26日[月] 第28回 日本の海洋画展 〒〒〒一般財団法人 全日本海員福祉センター 03-3475-5391	
9	3日[火]～8日[日] 2013全日本山岳写真展 〒〒〒全日本山岳写真協会 03-3634-8030	10日[火]～14日[土] 秋の日本水墨画展 〒〒〒妻島 090-3685-0871	16日[月・祝]～19日[木] 2013 美術の祭典 心を打つアート展 〒〒〒藝術出版社 03-3464-4451

Gallery 2			
7	19日[金]～24日[水] Gallery 1・2 同時開催 第42回 鳴鶴流天溪会書道展 〒〒〒川村 090-8720-4872		
8	20日[火]～25日[日] 瞑彩回廊 一四国遍路・心のかたち展 〒〒〒藝術出版社 03-3464-4451		
9	2日[月]～8日[日] 第21回 臨書と自由書作品展 〒〒〒児童の書を考える会 高橋 03-3371-5123	10日[火]～14日[土] 第1回 心和書道会小品展 〒〒〒庭野 048-479-4440	22日[日]～24日[火] Gallery 1・2 同時開催 としま区民芸術祭 豊島区総合美術展 〒〒〒公益財団法人としま未来文化財団 みらい文化課プランセクション 03-3590-7118

Atelier East			
7	1日[月]～7日[日] 第27回 金曜会絵画展 〒〒〒小笠原 03-3969-4982		
8	27日[火]～9月1日[日] 12人会 2013展 〒〒〒上田 042-398-0810		
9	2日[月]～8日[日] 山の絵と絵てがみ二人展 〒〒〒白澤 04-2948-2906	20日[金]～24日[火] 東風会第6回 作陶展 〒〒〒岸田 0422-43-8394	25日[水]～29日[日] 第12回 豊島フォトクラブ作品展 〒〒〒豊島フォトクラブ 03-3917-7726

Atelier West			
7	2日[火]～7日[日] 創作木目込人形展 〒〒〒羽原 03-3956-6814	25日[木]～28日[日] 第42回 くれよん展 〒〒〒森田 03-3906-8347	
8	21日[水]～26日[月] フラワーフォトクラブ第36回写真展 「花―植物たちの四季」 〒〒〒荒川 049-245-8428	27日[火]～9月1日[日] 第19回 JRP城北支部 「ふくろう」写真展 〒〒〒田沼 03-3935-7624	
9	3日[火]～8日[日] 第25回 ヴァン・ユイトステンドグラス展 〒〒〒小谷 045-881-2440	10日[火]～14日[土] 第9回 日本画 一会の会展 〒〒〒秀島 03-3997-9548	15日[日]～19日[木] 第20回 創作者集団アートビックス展 〒〒〒鈴木 03-3805-5111

PICKUP-III

集まれ！池袋 みんなの大道芸

9月1日[日]～10月31日[木]のうち、17日間程度、土日祝を予定 劇場前広場、池袋西口公園 ※雨天時はアトリウム内 無料

GWの大盛り上がりを経て、この秋再び開催されます！

東京都公認の大道芸人ヘブンアーティストのパフォーマンス場としても賑わいを見せている劇場前広場。いつきても大道芸を楽しめる雰囲気になってきており、ジャグリングが体験できるチャレンジ広場はGWから引き続き開催中です！不思議な恰好の足長パフォーマンス、ジャグリング等々、大道芸で盛り上がる劇場前広場にぜひお越しください！

| お問合せ | 東京芸術劇場 事業調整係 03-5391-2116  
チャレンジ広場・ヘブンアーティストの情報はコチラから  
www.geigeki.jp/performance/event029/



主催：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）

オックスフォード大学演劇協会(OUDS)来日公演『間違いの喜劇』

8月24日[土] 19:00開演・25日[日] 13:00／18:00開演 シアターイースト

詳細はP12へ

イギリスの名門学生劇団が、今年もやって来る！

リニューアル前からおなじみのプログラムとして親しまれてきたOUDS。シェイクスピア劇を現代風にアレンジし、フレッシュな舞台をお届けします。今年の演目は『間違いの喜劇』。生き別れになった2組の双子が巻き起こす騒動を、オックスフォード大の学生たちが生き生きと演じます！

英語上演・日本語字幕付き

7月6日(土) チケット発売

主催：東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）／豊島区



OUDS 2012「から騒ぎ」

©池上直樹

2013全日本山岳写真展―未来に残そう美しい山河

9月3日[火]～8日[日] 10:00～19:00 7日は18:00まで 8日は17:00まで ギャラリー1 無料



主催：全日本山岳写真協会

自然の美しさを体感しよう！

山岳を中心に、風景の雄大な美しさや、自然が織りなす神秘に満ちた光景を作品にして発表いたします。大切な大自然の素晴らしさを感じていただければ幸いです。

観劇だけじゃもったいない！  
芸劇のエデュケーションプログラム

公演に関連した事前レクチャーや、若手スタッフ、アーティストを対象にした講座など、年間を通して開催しています。情報は随時公開しておりますので、劇場HPやメールマガジンをチェックしてみてください！皆様のご参加をお待ちしております。





芸劇dance

## 「無限大∞パイプオルガンの宇宙— バッハから現代を超えて」

’13年4月12日[金] 東京芸術劇場 コンサートホール

構成・演出・振付・照明: 勅使川原三郎

出演: 勅使川原三郎/佐東利穂子/ジイフ/鰐川枝里/加藤梨花  
オルガン: 鈴木優人

主催: 東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

## オルガンの可能性に大きな期待—Dance×Organ公演レポート



4月12日、ダンサーの勅使川原三郎とオルガニストの鈴木優人のコラボレーションによる『無限大∞パイプオルガンの宇宙—バッハから現代を超えて』を観た×聴いた。劇場の改修後、オルガンを聴くのは初めて。さらに、2012年シアターXでの「オルガン—呼吸する物理学」で本物のリードオルガンを舞台に登場させた勅使川原と、作曲・プロデュースにも才能を見せる俊英・鈴木の顔合わせとあって、何ヶ月も前から楽しみにしていた。

芸術劇場のガルニエ・オルガンは、モダン面とバロック面、2つの顔をもつ。ステージは、モダン・オルガンを使った即興から始まった。オルガニストが足を思い切り左に伸ばすと、バババババ……と、楽音には聞こえない低周波の振動

が伝わってくる。このオルガンの中で一番大きい、高さ10メートル近くあるパイプの音色だ。そこに、ほとんど耳鳴りのようなキーンという高音が重なる。これは、一番小さいパイプの音。そう来たか、と、早くもワクワクしてくる。即興の音が消えて暗転、舞台上でダンサーが鋭い音でタップを踏む中、いつの間にかオルガンが回転してバロック面に。かなり速いテンポで、J. S. バッハの「パッサカリアとフーガ」が始まると、佐東利穂子、ついで勅使川原が登場——最初から、オルガンとダンスがぴったりと呼応した巧みな演出に目を奪われた。

鈴木は、バロック・オルガンでバッハ、ルネサンス・オルガンでスウェーリンクとブクスフーデ、そして再び回転してモダン・オルガンでメシアンと、楽器のスペックをフルに生かして古今オルガン音楽のエッセンスを披露した。メシアンに移るときは、客席中が息を詰めて見守る中、オルガンが粛々と回転。勅使川原は「音楽の友」誌に、オルガンが動く様は「古典建築と宇宙怪獣が交差するような異空間的ダイナミズムが視覚化され劇的」と語っている。生命あるもののように息づくオルガンの巨大な存在感が、勅使川原に強いインスピレーションを与えたことがよくわかった。オルガンが生み出す空気の変動に感應し、無限にうねる勅使川原と佐東の身体によっ

て、絡み合う音の宇宙が舞台上に現出する。聴き慣れたオルガン作品を目で見る、それは実に刺激的な体験だった。

緻密に作り込まれた演出から察するに、今回はダンス主導で段取りが決まっていたものと思われる。オルガンが舞台上高くに位置していることもあり、ダンサーとオルガニストは直接アイ・コンタクトが取れる位置関係にはない。もう少しライブ感があればと思わないでもなかった。オルガニストは、今日でも即興を日常的に行っている(教会の礼拝の進行に合わせるため)。お互いが見えるところで、たとえば全編即興で「異種セッション」をしてもおもしろいのではないか。今回のようなコラボレーションを重ねる中で、新たに生まれてくるものもあるだろう。演劇・ダンスの制作能力が高い東京芸術劇場だからこそできる試みに、これからも期待したい。

文: 中村ひろ子(ライター・翻訳者)



## 「マシーン日記」

’13年3月14日[木]～31日[日] 東京芸術劇場 シアターイースト  
’13年4月13日[土] りゅーとぴあ(新潟)  
’13年4月20日[土]～21日[日] 北九州芸術劇場(福岡)  
’13年4月25日[木]～27日[土] パリ日本文化会館(フランス)

作・演出: 松尾スズキ

出演: 鈴木 杏/少路勇介/オクイシュージ/峯村リエ

## 松尾スズキ作品、初めて海を渡る「マシーン日記」パリ公演レポート

「濃密で、豊かで、可笑しくて、狂っている。さらに深く理解するために、もう一度みようと思う」  
(パリ公演のアンケートより)

『マシーン日記』4月のパリ日本文化会館での本番は、舞台に登場した松尾スズキさんの「ボンソワール」というあいさつで始まりました。劇中でてくる「仮装大賞」「ジャングル風呂」「鳥人間コンテスト」について、フランス人の観客に説明をするために、全編フランス語で前説を行ったのです。短い準備時間の中で猛特訓したフランス語による約5分のスピーチで、松尾さんがパリジャン、パリジェンヌのハートをがっちり掴んだ舞台の幕開けでした。

2013年3月に東京芸術劇場シアターイースト



で幕を開けた『マシーン日記』は、4月の新潟、北九州公演を経て、最後に松尾スズキさんの作品初の海外公演としてパリへ向かいました。約20年前に書かれたこの芝居は、キャスト、演出、劇場も一新して、12年ぶりの再演です。

今回のパリ公演は、「是非パリで松尾さんの作品をやりましょう」というフランス側の提案からスタートしました。妥協せず、「日本と完全に同じものを観てもらふ」ことにこだわりぬいた今回のパリ公演のために、日本国内で使われた物と寸分違わぬ舞台装置と小道具がパリに持ち込まれました。ツアースタッフも、北九州から乗り継ぎでパリへ直行し、そのまま仕込みに突入する強行スケジュールをこなして公演準備を行いました。

日本ツアーを経た『マシーン日記』。出演者の呼吸もぴったり、スタッフワークも万全の状態。とはいえはじめての海外公演で、台詞は字幕を通じて伝えられる。細かなニュアンスや文化の違いが伝わるのか、演出家も出演者たちも不安と緊張を抱えて本番にのぞみました。そんな心配をよそに、上演が始まると満席の観客はどんどん作品に引き込まれ、客席では、台詞のタイミングに合わせて、素直な笑いやどよめき、ときには悲鳴が起こりました。カーテンコールは大喝采。終演後のロビーでも、アンケートでも、演出・俳優・舞台美術のクオリティの高さに驚嘆の声



があふれました。

「この家族が墮落の道を進むさまを、閉ざされた窓が覆い隠す。幸せな世界と恐怖の世界は、月光が照らす窓ひとつで分断されるに過ぎない。外の幸せな世界では彼らは「常識人」である。しかし室内では、何とか生き延びようとする家庭の悲劇的な現実が繰り広げられている。人間の恐ろしい一面が、現実と連結した漫画的なもののなかで、砂時計の砂が落ちるかのように暴露されていくのだ。」パリ公演直後に書かれたレビューからは、松尾スズキ作品の虜になった観客の興奮が伝わります。

遊び心と辛辣なユーモアにあふれる台詞、全力でぶつかりあう俳優たちの熱演、こぼれそうに大量の小道具、なにもかも過激で過剰なこの芝居の根底にある、言葉を越えた普遍的なテーマは、間違いなくパリの観客の胸にも届いていました。

文: 「マシーン日記」制作担当



VOICE.4  
ダンサー・振付家・演出家

勅使川原三郎

若い世代と向き合うということ。

80年代、それまでのダンスの定義を一気に塗り替える作品で登場し、  
近年では海外歌劇場でのオペラ演出など、幅広く第一線で活躍を続けている勅使川原三郎。  
来年度から、本劇場の芸術監督・野田秀樹と多摩美術大学で共に教壇に立つことに。  
劇場、学校、稽古場を通してふたりが若い世代に期待するものとは？

これまでとは違う人たちと  
出会いたくなった

野田 意識してそうしてきたわけではないんですが、94年にNODA・MAPを立ち上げてから、そこで出会う人以外とは、演劇の世界でもほとんど付き合いがなくなっていたんです。多摩美から「若い人に演劇を教えませんか？」という話をもらったのと、この劇場から芸術監督の話をもらったのがほとんど同じ時期で、ちょうど自分でも、もう少し外の人たちと接していくべきなんじゃないかと考えていたところでした。



ですが、そう考えるようになったのは、言ってみれば危機感というか。自分が芝居をつくるときに、若い役者と出会いますよね。そこで「いまの若い役者はどうしてこういうやり方しかできないんだろう？」と疑問を感じることもある。でも、若い人たちと継続的に接していないからゆっくり話を聞いたことがない。だとしたら、ちゃんと会って話をしたほうがいいんじゃないかと思うんですよ。

プロもいますし、そうじゃない人たちもいます。ただ僕は、学生か学生じゃないかも含め、プロかアマチュアかで区別する意識がほとんどないんです。自分がそういう育ち(学生時代に立ち上げた劇団からそのままプロになった)ということもあって、役者であれ演出家であれ、何かの表現者を目指しているなら、プロもアマも関係ないだろうと。

日本の演劇は、人材の数もレベルも、学生劇団によってかなりの部分がつくられてきたという、世界的に類のない歴史がある。いま活躍している役者、演出家、劇作家の多くが学生劇団から

出てきているんですよね。それは必ずしも恥じるべきことではなくて、いまの若い世代もそうなる期待ができる。だとしたら、劇場や学校で積極的に出会って話をしていきたいと思いました。

勅使川原 僕は最近ダンスを見ることがあまりありませんが、今の時代の身体性はどうかという事には関心があります。30年近く前から僕は創作を始めると同時に一般向けのワークショップを開き多くの若者と出会ってきました。ワークショップを開いた理由は、作品以前にやるべき事、つまり技術訓練や考えることを若いうちに経験する重要性を伝えたかったからです。僕のワークショップには20年通い続けている人がいたりする。彼らは舞台に立つのが目的ではなくて、ワークショップを通して自分の身体を研ぎ澄ましているんです。でも、技術的にも相当なものですけどね。

野田 すごいでしょうね、なかなかそういう話は聞きませんよ。

勅使川原 それと僕自身が、僕は美術家になりたいと思っていたけれど、ある時に自分の身体自身に可能性を感じてダンスを始めたんです。既成のダンスに魅力を感じてダンスをはじめたのではない。僕は人間が知らない状態から感じ取ってゆく驚きに関心があります。だから若い人たちにも全然期待していません。流行や既成概念にとらわれず勝手にやったらいいと思う。でも真剣にね。もう少し補足すると、何かをわかってから始めなくていい。むしろ、わからないまま始めたほうがいいと言いたいですね。

野田 それは至言ですね。

勅使川原 最初からわかったつもりでいたら、逆にすごく時間がかかってしまうと思います。必ず途中で全部の価値観をひっくり返さなきゃいけないから。僕はいまだに、まず触ったり匂いをかいだりというところから始めます。当たり前だと思われていることを改めて身体を通して感じる、それをしないと、どんなダンスをしようと意味がないと思っているので。

野田 そういう実体験から出てくる言葉こそ、若い人にとって本当に必要なものでしょうね。

勅使川原 これはある意味、プロフェッショナルというくくりからは最も遠い行動ですけど(笑)。

野田 もちろん言い方はいろいろで、何をどんなふうに伝えるか、何が教えられるのかは人それぞれですけど、ある程度の経験を積んで、その先、若い世代に向き合っていくと考える節目って、たいていの作り手にはあるんじゃないですかね。僕が多摩美で教えることになったと聞いて、あの柄本明さんがわざわざ連絡をくれて「学生たちと話をしてみたい」と申し出てくれたんですよ。こっちは願ったり叶ったりでうれしかったですど(笑)。

勅使川原 だって、若い人がどんどん出てきてくれないとつまらないですよ。『ダンスの世界』が、というより「人間全体」が(笑)。

自分に対する  
批評精神を持っているか

野田 この劇場の芸術監督に就任するときに考えたのが、まさにそれですね。ここは小ホールが2つあるので、若くて面白い劇団の人たちが使ってくれる劇場にしたいと。そうでないと若いお客さんも来ない。

勅使川原 つくり手に関していうと、生意気なヤツが出てきてくれないとつまらない。

野田 そこが難しいところです。海外の若い演出家たちと喋ると——国によって多少の違いはありますが——、相手がどんなに有名な演出家でも、どんなに年上でも、表現者としては自分も同じところにいるんだという意識がはつきりとあって、対等な物言いをしますよね。でも日本は、先生と生徒の関係性が染みついている人が多い。だから「待ち」の姿勢が基本です。指示されるのを待っている。

勅使川原 そういう人は、どこで何をやってもダメでしょうね。若い人たちが上手くできるかどうか、僕はそんなに気にしませんよね。それより、何を考えているのかに興味がある。

野田 年輩の人間が「こうしたほうがいい」と言うことが絶対正しいとは限らないですし。

勅使川原 表現はその人の「考え」なのですから、どんな表現でも独自に価値があればいい。でも、特にダンスはそうですが、まず表現できる技術がなければだめです。徹底した基礎技術が独特の内面性を表に出すことができると僕は考えています。それに、常に「怖さ」を感じていなきゃダメですね。怖さというのは、批評精神と言ったら固く聞こえるかもしれないけど、自分自身に対しても「本当にそれでいいのか？」と問い続けることです。

野田 それは若い人に特に大事だと思います。いま、社会全体が自己愛の時代になりつつありますよね。喋っている言葉を聞いても「僕って、



こういうヒトじゃないですか」なんて当たり前前言う。「お前のことをそんなに知ってるやつはいねえんだよ」と言いたくなります(笑)。少なくとも表現者でそれは絶対に通じない。自分に対して批評精神をどのくらい持っているか。

勅使川原 別の言葉に置き換えるなら皮肉、アイロニーですよ。表現にはそれが必要です。アイロニーを喩えるなら、表で聞こえるメロディーの裏で鳴っている音と言うのかな。聞こえない人もいますよ。でも聞こえる人に対しては、何がそれを鳴らせているのかとか、いろいろ考えさせるものです。

野田 せりふにしたことや、舞台上にあるものがテーマだと思われがちですけど、そうじゃない。

勅使川原 「人によって笑える」とか「人によって感動する」って怖いことですよ。でも怖いぐらいの力がないと、権力や規制など、見えなものには立ち向かえない。若い人にはそれを知ってほしいですね。

文：徳永京子  
特別協力：多摩美術大学

今回のアイタイヒト

勅使川原三郎 SABURO TESHIGAWARA

てしがわら・さぶろう ダンサー、振付家、演出家。81年より創作活動開始。85年にダンスカンパニーKARASを設立。舞台美術、照明、衣裳、音楽なども自ら手がける透徹した美意識に貫かれた独自の作品は、世界のアートシーンに多大な影響を与えている。今秋パリオペラ座バレエ団へ振付ける他、今後もヨーロッパの劇場を中心に、公演・振付・オペラ演出等の依頼が続く。



9月6日(金)～8日(日) 新作『第二の秋』上演予定。  
東京芸術劇場プレイハウスにて。 <http://www.st-karas.com/>

野田秀樹 HIDEKI NODA

のだ・ひでき 劇作家、演出家、役者。1955年、長崎県出身。大学在学中に劇団夢の遊眠社結成、一大ブームを巻き起こし92年に解散。ロンドン留学を経て93年、NODA・MAPを設立。国内のみならず海外でも積極的に作品を発表。09年、東京芸術劇場の芸術監督に就任。多摩美術大学造形表現学部映像演劇学科教授。

10月4日(金)～11月24日(日) 野田地図 第18回公演『MIWA』  
東京芸術劇場プレイハウスにて。その後、大阪、北九州にも巡回。  
<http://www.nodamap.com>



# 劇場内施設ガイド

東京芸術劇場には、カフェ、レストラン、ショップのほか、音楽スタジオ、  
託児施設、郵便局などがあり、どなたでもご利用いただけます。  
また、1Fのアトリウム広場ではWi-Fiも使えます。皆様のお越しをお待ちしています！

1F  
音楽スタジオ



ミュージックスタジオ「フォルテ」 9:00～22:00

Tel:03-5391-0761

クラシックファンの方、ミュージカルスターを目指している方、子供から大人まで幅広い層に人気の、全室ピアノ付の音楽スタジオです。5月から劇場駐車場割引サービスもスタートしました。



1F  
おにぎり



吾ん田 10:00～19:30

Tel:03-5928-0813

厳選した素材をつかい、ボリュームが自慢のおにぎりの専門店。美味しいお茶漬けもご用意しています。事前予約にて館内各所へのお届けサービスも可能。駐車場割引サービスも実施中！



1F  
グッズショップ



音楽雑貨 でぶねこ 11:30～20:00

Tel:03-3983-7575

音楽アクセサリや音楽雑貨の専門店。夏から秋にかけてのオススメは猫と音楽モチーフのTシャツです。1点モノのオリジナル商品を多数ご用意してお待ちしています。



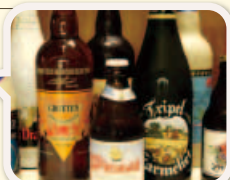
1F  
ビールカフェ



ベル・オーブ 11:30～23:00

Tel:03-3987-7895

日本には、まだまだ少ないこだわりのベルギービールが毎日楽しめる！カフェやお食事はもちろん、食材にもこだわったベルギー料理もご用意。ご観覧後のお食事や歓談のひと時にお気軽にご利用下さい。



1F  
郵便局



東京芸術劇場郵便局

Tel:03-3971-4885

劇場の中にある郵便局は都内でも1つだけ。「お客様とともに沢山の感動と愛を分かち合う」をモットーに窓口営業をしています。芸術ならではの記念切手や、全国各地のお取り寄せ等とりそろえています。



1F  
グッズショップ



シアターアートショップ 10:00～20:00

Tel:03-5950-3655

夏もワクワクする、また「涼」を感じる「青・緑・水」をテーマにした額装を始め、サマーカードを添えてギフトに最適なガラス食器・小物などを取り揃えています。駐車場割引サービスも実施中！



2F  
カフェ



カフェ 愛かなで 11:00～22:00 (ラストオーダー21:30)

Tel:03-3971-0550

公演の終演後や、ギャラリーでの展示を楽しんだ後は、余韻を語らいに、カフェ奏へどうぞ。抹茶を使った甘味と、京風のご軽食でほっと一息。広々とした空間で寛ぎなひとときが過ごせます。



2F  
レストラン



アル テアトロ 11:00～23:00 (ラストオーダー22:30 予定)

Tel:03-3984-2221

観劇の前後にゆったりとくつろげる空間で、伝統のイタリアトスカナ料理を味わえるお店。ミシュラン2つ星ジョバンニシェフ監修の全7品2800円コースがおススメです。駐車場割引サービスも実施中！



5F  
キッズルーム



芸術キッズルーム「ミュージズ」 9:00～22:00

Tel:03-3981-7003

他の劇場にはないお得な料金設定でお子様をお預かりしております。平日お昼の回での観劇・土日ご夫婦での観劇などにぜひご利用ください。



## 専門 舞台芸術学院

創立65年の伝統と実績

2013 夏

AO 入試エントリー

プレスクール（体験レッスン）

申し込み受付中

詳しくは [www.bugei.ac.jp](http://www.bugei.ac.jp)



# 日本の建物・施設を 美しく、快適に――。

日東カストアル・サービス株式会社

<http://www.nitto-cs.jp/>





COVER PHOTO

集まれ!池袋 みんなの大道芸

5月3日[金・祝]～6日[月・祝]  
劇場前広場、池袋西口公園

撮影:平田光二(アポロ創研)

# 東京芸術劇場

Tokyo  
Metropolitan  
Theatre



Concert Hall



Playhouse

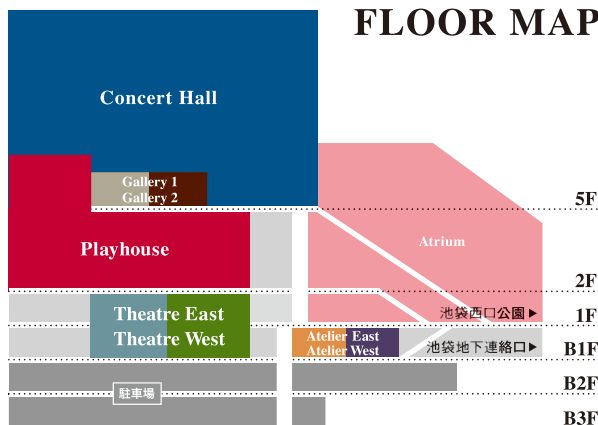


Theatre East



Theatre West

## FLOOR MAP



### 1F 東京芸術劇場ボックスオフィス (チケット・総合案内カウンター)

予約  
お問合せ | 0570-010-296  
(休館日を除く10:00～19:00)

### 5F 芸劇キッズルーム ミューズ (託児サービス)

東京芸術劇場でご鑑賞のお客様に開演1時間前～  
終演後30分までお子様をお預かり致します。

利用料金 | 生後4ヶ月～1歳児:2,000円/  
2歳～6歳児:1,000円

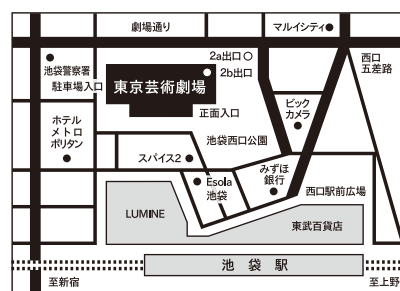
お問合せ | 03-3981-7003

### B2F・B3F 東京芸術劇場駐車場

利用料金 | 300円/30分

営業時間 | 7:00～24:00

お問合せ | 03-6914-0019



〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1

開館時間 | 9:00～22:00 (休館日を除く)

お問合せ | 03-5391-2111

JR、東京メトロ、東武東上線、西武池袋線池袋駅西口より  
徒歩2分。池袋駅地下通路の2b出口に直結しています。

## 〈東京芸術劇場パートナー企業・団体 ご芳名〉東京芸術劇場の年間運営事業に賛同し、ご支援くださっている皆さまです。

アサヒグループホールディングス株式会社  
株式会社 資生堂

凸版印刷三幸会  
レンゴー株式会社  
東京地下鉄株式会社  
株式会社 JTBコーポレートセールス

立教大学  
丸茂電機株式会社  
トヨタ自動車株式会社  
西池袋熱供給株式会社  
住友生命保険相互会社  
三精輸送機株式会社  
株式会社 松田平田設計

ホテルメトロポリタン  
明光義塾  
早稲田塾  
株式会社フジテレビジョン  
株式会社WOWOW  
東京臨海熱供給株式会社  
株式会社 東京ビッグサイト

ソニー銀行株式会社  
キヤノン株式会社  
ヤマハサウンドシステム株式会社  
株式会社 TBSテレビ  
株式会社 松村電機製作所  
渡邊建設株式会社  
香山壽夫建築研究所

(2013年4月1日現在)